

Advance

出会いが育てる自分「自信」

今週の教室には、たくさんの「外からの風」が吹き込みました。先週の名古屋高校の生徒に続き、今週は聖霊高校の生徒がインターンシップとして授業に参加しました。さらに、6年生のときに他校へ進学した仲間が久しぶりに顔を見せ、元気な姿を届けてくれました。そして昨日は、なんとオランダから体験入学の生徒も参加し、教室はちょっとした「交差点」のような1週間になりました。

そんな中で最も印象的だったことは、7年生のみなさんの「訪問した人たち」への向き合い方の変化・成長です。最初はどうしても少し緊張してしまう雰囲気のお客様方に対して、自分から声をかけたり、自然に輪の中に入れたり、相手が安心できる空気をつくる素敵な姿をたくさん見ることができ、心がほっこりしました。

社会心理学者 Charles H. Cooley は、自分とは異なる他者との交流が「社会という鏡」となり、自分の姿を認識する過程になると考えました（いわゆる「鏡に映る自分」理論）。

また、『心理学に学ぶ鏡の傾聴』（岩松正史 著、翔泳社、2024年6月刊）では、「聴き手が自己一致すれば話し手も鏡のように映される」とし、傾聴を通して他者と響き合うことが自己受容と成長につながると説明しています。

まさに今週の7年生は、訪問した人たちという鏡を通して、「自分たちはどういう学級でありたいか」「自分は、どう人と関わりたいか」を考える、大チャンスだったわけです。

そしてその一つ一つのちょっとした関わりが、これからの自分という土台に小さな「自信」の芽を育てていくのだと思います。

知らない人と関わることは、少し緊張もするし、普段どおりにいかないこともよくあります。でも、そのたびに自分の姿を確認し、「こうありたい」という気持ちを形にしていけることができます。

哲学者・鷲田清一さんは著書『「聴く」ことの力』で、以下のように書いています。

「人は他者と出会うことで自分の輪郭を知る」

だからこそ、この一つ一つの出会いを大事にしてほしいと思います。インターンの生徒、別の中学校に進んだ仲間、海外から来た友だち.....その誰かと目を合わせ、声をかけ、笑顔を交わした瞬間に、7年生のみんなは少しずつ「自分」という輪郭を描き、そして確かな「自信」を積み重ねているのだと考えます。

こうした出会いは、ご家庭でも話題にさせていただくことで、さらに子どもたちの「自分ってこうなんだ」という実感につながっていきます。ぜひ、ご家庭でも「今日はどんな出会いがあった？」と振り返る時間を持っていただけると嬉しいです。

これからもさまざまな人との関わりを通して、少しずつ自分「自信」を育てていく子どもたちの姿を、ご家庭と学校で共に見守り、支えていければと思います。2週間の休みに入りますが、この期間も日常の中でたくさんの出会いや経験が、子どもたちの成長につながっていくことを願っております。

We will value "Purpose" and "Ownership" for you